

夏咲きぎくの7～10月出し電照抑制栽培における適品種の選定							
[要約] 夏咲きぎく品種の中から、7～10月出し電照抑制栽培において切花品質が「精雲」と同等に優れ、開花調節が容易な品種として「新玉精」、「酔美人」、「29号」、「白秀芳」、「村瀬宝」、「46号」及び「村上の白」を選定した。							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園芸	専門	栽培	対象	花き類	分類	普及

[背景・ねらい]

夏咲きぎくの7～10月出し電照抑制栽培では、7～8月の高温・長日により消灯後の開花が遅れたり、奇形花が生じるなど、品質低下が問題となっている。また、主要品種である「精雲」は、暖地の9月出し以降の作型では茎の伸長が劣り、柳芽を発生しやすい欠点がある。そのため、県内の主要産地における夏咲きぎく品種の中から、「精雲」と同等に優れた形質を持ち、電照による開花調節が容易な品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

①7～8月出し栽培では、「新玉精」、「酔美人」及び「29号」は消灯から開花までの日数が「精雲」とほぼ同じで、切花品質もよい。「村瀬宝」と「46号」は草姿・花型がよいが、「精雲」と比べて開花が3週間以上遅れる(表1)。

②9～10月出し栽培では、「29号」と「白秀芳」は摘心後7週間電照により「精雲」とほぼ同時に採花でき、奇形花は発生しない。「村瀬宝」、「46号」及び「村上の白」は、「精雲」よりも開花は遅れるが、切花長が長くなり品質が優れる(表2)。

③「雷山天寿」、「天寿」、「ミス飯塚」は消灯から開花までの日数が長くなるため、平地における電照抑制栽培には適さない(表1～表2)。

[成果の活用面・留意点]

①夏咲きぎく主要産地における優良品種として普及を図る。

②中山間地の雨よけ施設等を利用した電照抑制栽培により、高品質ぎくの生産が可能である。

③9～10月出し電照抑制栽培における親株養成は、5月以降は電照を行って花芽分化を抑制する必要がある。

[具体的データ]

表1 7～8月出し電照栽培における開花及び開花時の諸形質（平成3年）

品 種	平 均 開花日	切花長	葉 数	花首長	評 価	
	月/日	cm		cm		
精新 村雷 42 天	雲精人宝大寿	7/14	101	41	4.4	—
	玉美瀬山69号	7/12	104	32	7.7	○
	瀬山69号	7/23	99	39	5.7	○
	天白村ミ	8/8	104	43	5.4	○
	芳の飯	8/26	101	49	4.4	△
	白塚	8/12	105	47	5.6	○
		7/28	100	42	5.1	○
		8/29	118	56	4.1	△

注) 定植は平成3年3月29日、電照は4月5日から6週間行い、5月17日に一斉消灯。品質評価は○：優、○：良、△：普通、×不良

表2 9～10月出し電照栽培における開花及び開花時の諸形質（平成4年）

品 種	平 均 開花日	切花長	葉 数	花首長	評 価	
	月/日	cm		cm		
精新 村雷 42 天	雲精人宝大寿	9/1	91	28	6.2	—
	玉美瀬山69号	9/19	96	43	3.5	○
	瀬山69号	10/9	97	50	3.4	△
	天白村ミ	9/22	92	39	2.3	○
	芳の飯	9/6	82	33	4.6	○
	白塚	10/2	99	46	3.1	△
		9/7	109	34	6.5	○
		9/19	107	43	1.1	○
		10/6	114	50	5.2	△

注) 定植は平成4年5月20日。電照は6月10日から6週間行い、7月22日に一斉消灯

[その他]

研究課題名：夏咲きギクの品種選定と生産安定

予算区分：経常

研究期間：平成4年度（平成2～4年）

研究担当者：谷川孝弘、小林泰生、坂井康弘

発表論文等：平成2～4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書